

令和3年度 マイブック推進事業について 《H26事業開始:8年目》

実施期間 令和3年7月1日(木)~9月30日(木)



令和3年度の使用状況

クーポンを使用した児童(使用率)

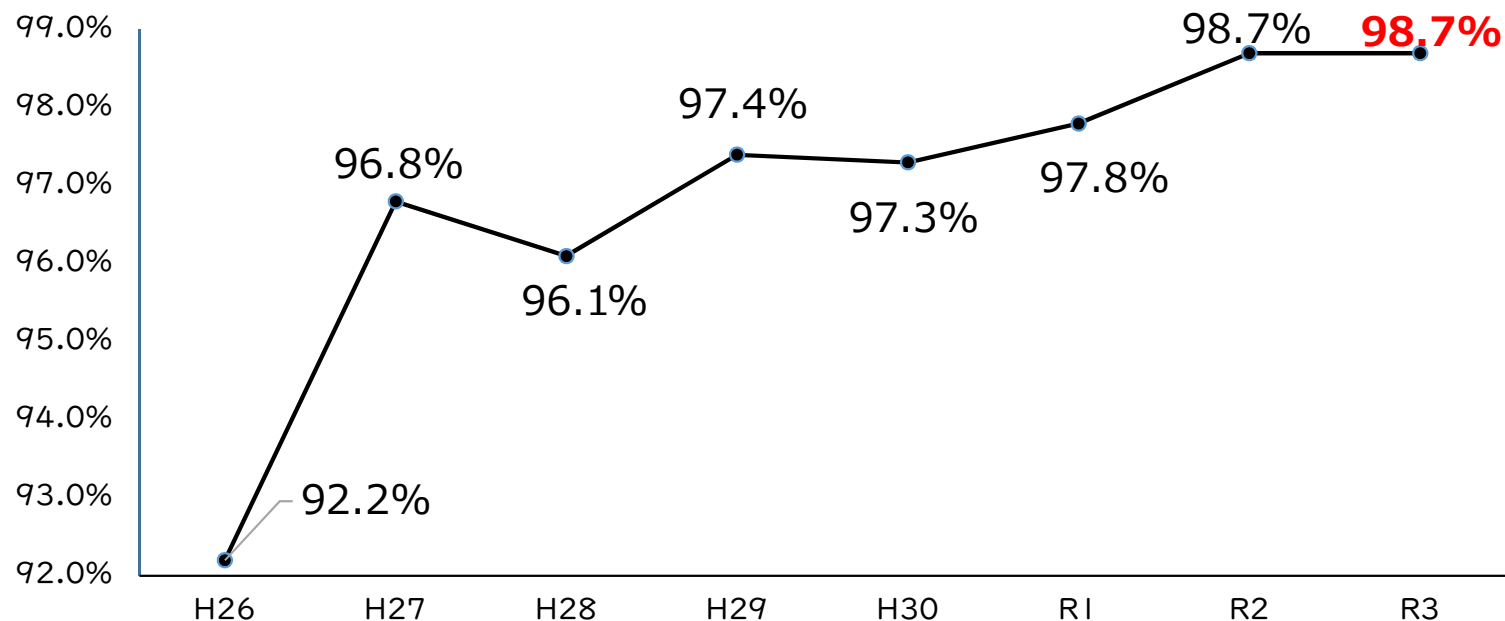
※「未使用」＝1枚も使っていないこと

配布人数	10,749人
使用人数	10,608人
使用率	98.7%
未使用人数	141人
未使用率	1.3%

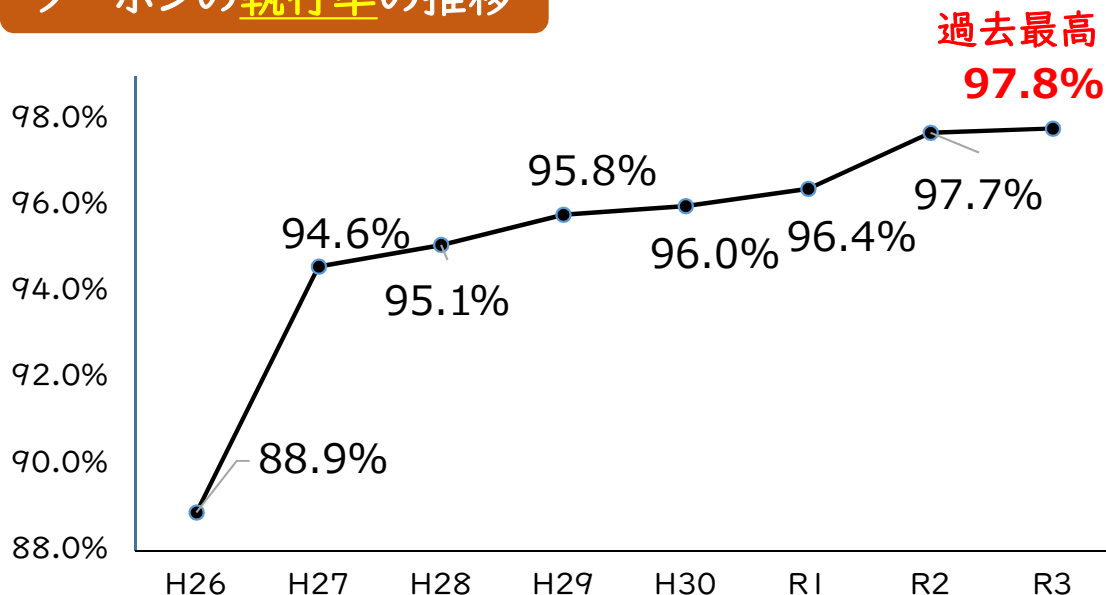
使用されたクーポン(執行率)

配布枚数	42,996枚
使用された枚数	42,065枚
クーポン執行率	97.8%

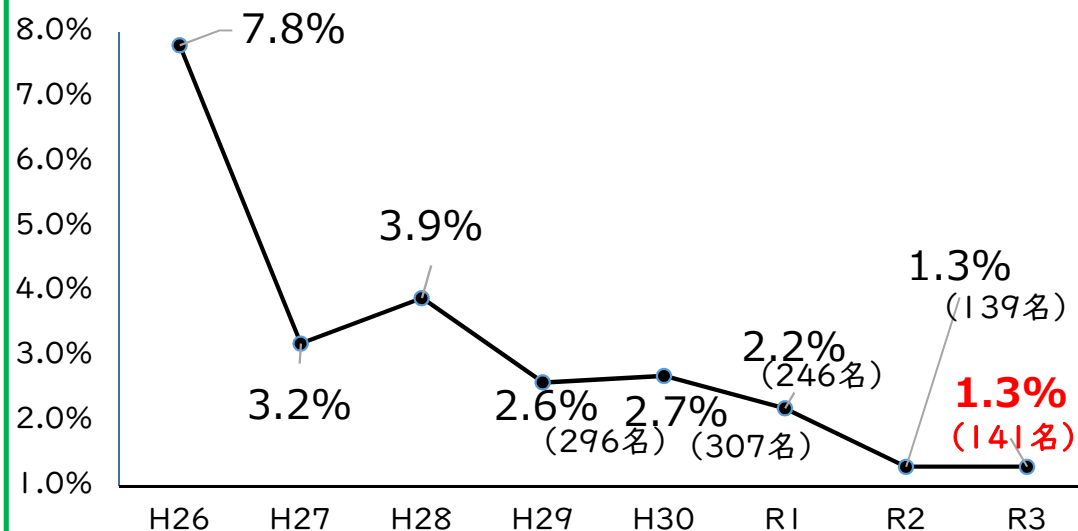
クーポンを使用した児童の割合(使用率)の推移



クーポンの執行率の推移



クーポンを全く使用しなかった児童の割合の推移



2 クーポンの使用状況 <<県立特別支援学校>>

令和3年度の使用状況

クーポンを使用した児童(使用率)

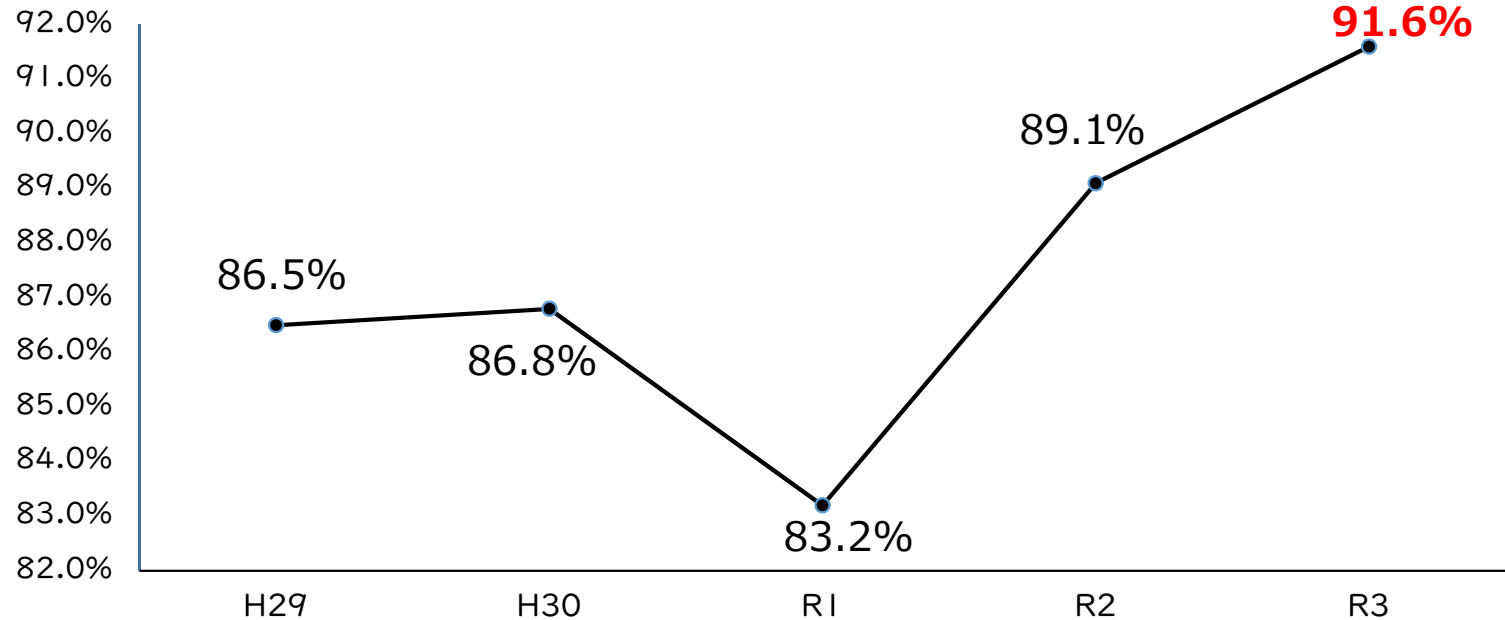
※「未使用」＝1枚も使っていないこと

配布人数	191人
使用人数	175人
使用率	91.6%
未使用人数	16人
未使用率	8.4%

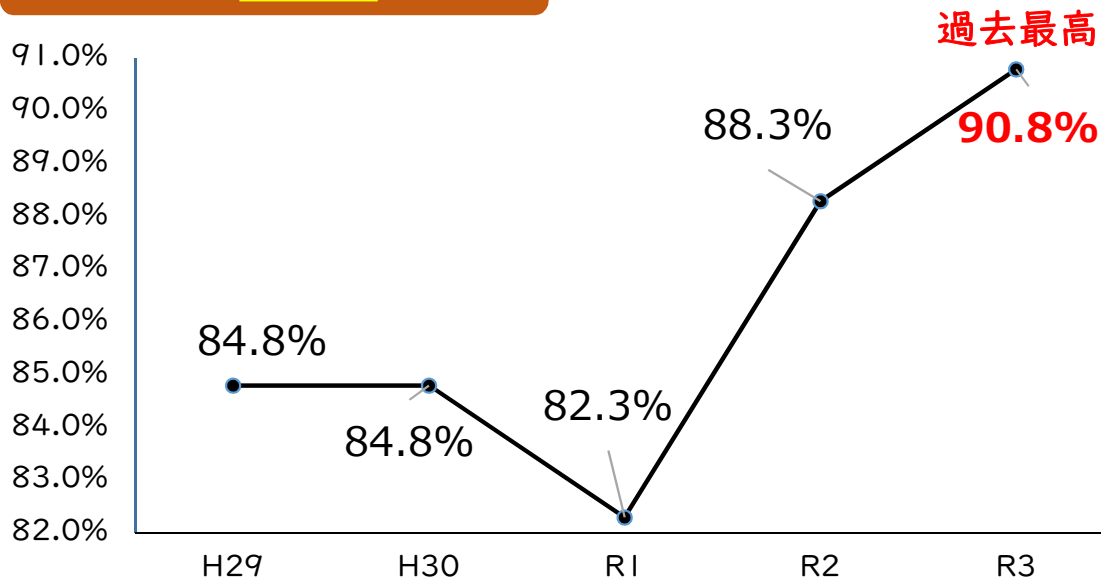
使用されたクーポン(執行率)

配布枚数	764枚
使用された枚数	694枚
クーポン執行率	90.8%

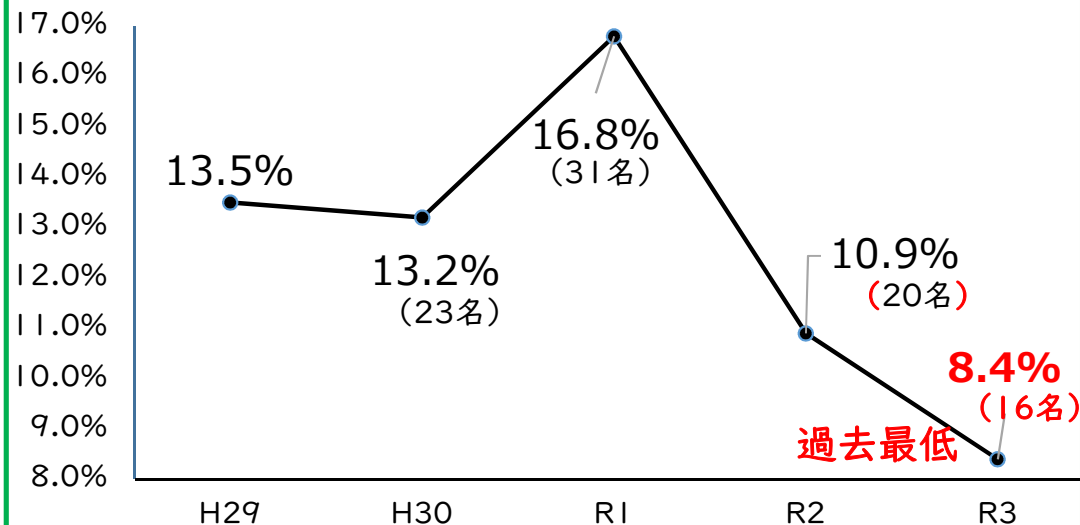
クーポンを使用した児童の割合(使用率)の推移



クーポンの執行率の推移



クーポンを全く使用しなかった児童の割合の推移



3 主な取組の状況

出張ブックトークの実施(平成30年度より)

《内容》ブックリスト「本はともだち」に掲載されている本を中心に、内容の紹介や読み聞かせ等により、本に対する興味や関心を高める。

《対象》希望する市内の小学校

《講師》八戸工業高等専門学校 教授
八戸ブックセンター 企画専門員
市立図書館職員(2019年より)
学校司書(2020年より)

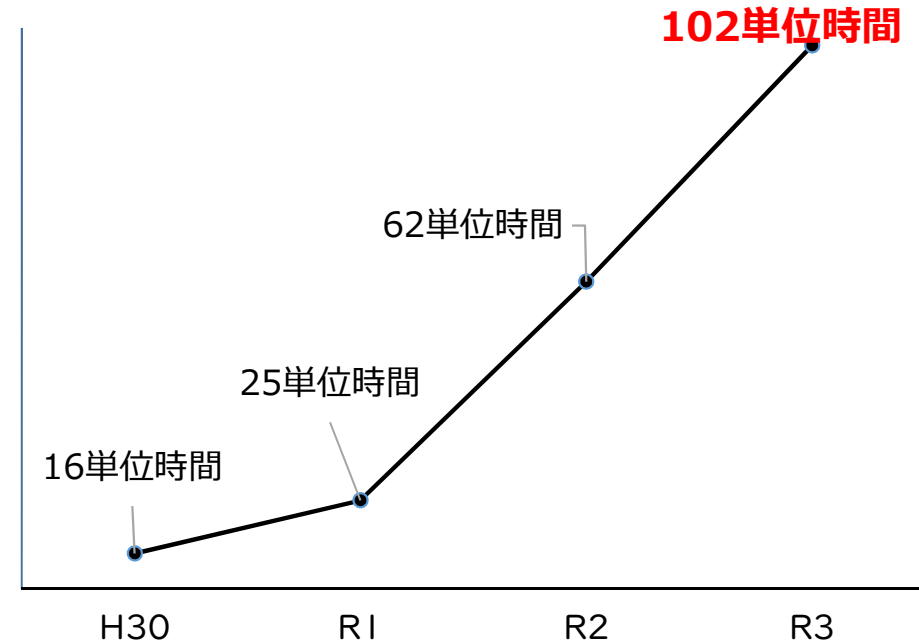
◇これまでの活動実績(1単位時間=45分間)

年	実施時間数	対象児童数
H30	16単位時間	521人
R1	25単位時間	1,026人
R2	62単位時間	1,607人
R3	102単位時間	2,759人



令和3年7月2日付
東奥日報

出張ブックトーク実施時間数の推移



ブックリストの作成・配布(平成29年度年より)

- 児童の本に対する興味・関心を喚起するために、おすすめの本を紹介するブックリスト「本はともだち」を作成し、クーポンと一緒に全児童に配布。
- ブックリストに掲載する本は、八戸ブックセンターと八戸工業高等専門学校の戸田山教授を中心に、市立図書館、学校司書が連携して選書した。
- 三菱製紙八戸工場が用紙を無償提供



学校用ポスターの作成・配布(令和元年度より)

- コンセプトは「児童の目を引き、足を止め、何度も見たくなるポスター」
- デザインは、今年度は古戸杏実氏に依頼した。
- ポスターとリンクした塗り絵も作成・配布した。
- ポスター、塗り絵のデータも各校に提供



↑ポスター



↑塗り絵

4 課題解決のための新たな取組～注文袋を全児童に配布～

ねらい・方法

〈ねらい〉

- 新型コロナの感染拡大により、外出を自粛せざるを得ない状況であっても、書籍の購入を可能にする。
- 家庭の事情等により、書店へ出かけることが難しい児童も、クーポン使用期間内に書籍を購入することができるようにする。
(昨年度は、クーポン使用期間後に、未使用の児童にのみ注文袋を配布)

〈方法〉

- クーポン1枚分(500円)で購入できる書籍等を掲載した注文袋を作成する。
- 注文袋は、クーポンと一緒に全児童に配布する。
- 児童が提出した注文袋は、各学校が随時、メール便で教育指導課へ提出し、八戸書店連盟が回収する。
- 注文袋の回収が学校の負担増とならないように、専用の回収袋を作成する。
- 八戸書店連盟では、注文袋で注文された書籍を各学校へ配達する。



表面



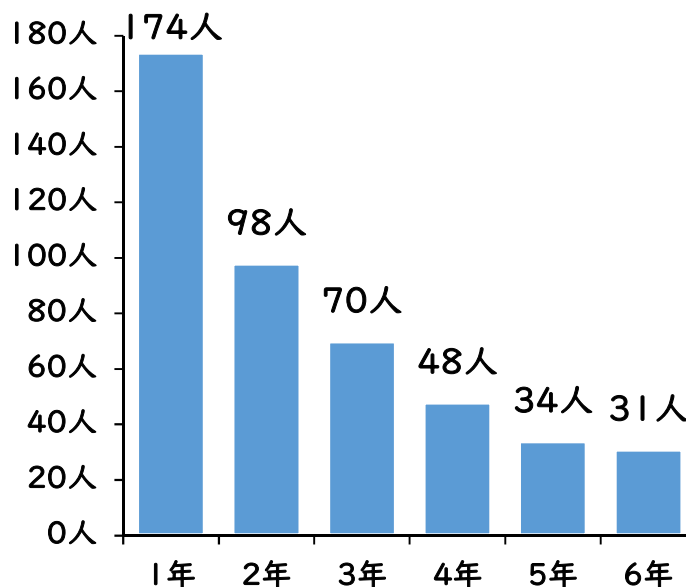
裏面

注文袋の使用状況

〈概況〉

- 注文袋を利用した児童数
455人
(全体の4.2%)
- 注文袋で使用されたクーポンの枚数
1,539枚
(使われた全クーポンの3.6%)

学年別の利用件数(合計455人)



月別の利用件数



注文袋でのクーポン使用枚数



4 課題解決のための新たな取組～注文袋を全児童に配布～

学校アンケートより

〈注文袋の配布～成果と思われること～〉

- コロナの影響もあり、外出が制限されていたり、保護者の仕事の都合で書店へ足を運べなかったりした児童もいたので、よかったと感じた。
- コロナ禍のため、書店での購入が困難な家庭もあり、注文袋の配布が助かったという声がありました。
- コロナウイルス感染予防などでなかなか買いに出られない子にとって、注文袋はありがたかったと言う声が聞こえてきた。
- 夏休みに購入していない児童は、行きたくても保護者の都合で連れて行ってもらえずにいたようです。再度、注文の封筒を送っていただいたことで、児童が欲しい本を選んで購入することができました。
- 今回の注文袋配布の取組、大変いいなと思いました。今まで書店に行きたくても家庭状況等で行けない児童もいたので、大変良かったです。実際、低学年の児童が活用していました。また、クーポンを使い切っていない児童に再度配布できるのも良かったです。この取組を、これからも是非継続していただけるとありがたいです。
- おすすめブックリストに掲載されている本が書店にない場合もあると思うので、注文袋で買えるのはよいと思う。
- 使い残したり、紛失したりした児童は、家庭環境に起因する理由がある場合が多く、袋を使うことで、学校で支援してあげることができた。
- 負担がかかる部分があるかも知れませんが、とてもよい取組だと思いました。実際、家庭環境に不安のある児童が使用していました。
- 注文袋を使って購入した児童が本学級では29名中1人だった。しかし、全員に配布したことで、本への興味が湧いたり、おすすめの本について知ることができたりしていたように感じる。
- 例年、買いに連れて行かない保護者にも注文袋を配布したことで、学校で注文して本を買うことができた。とてもよい取組だと思う。

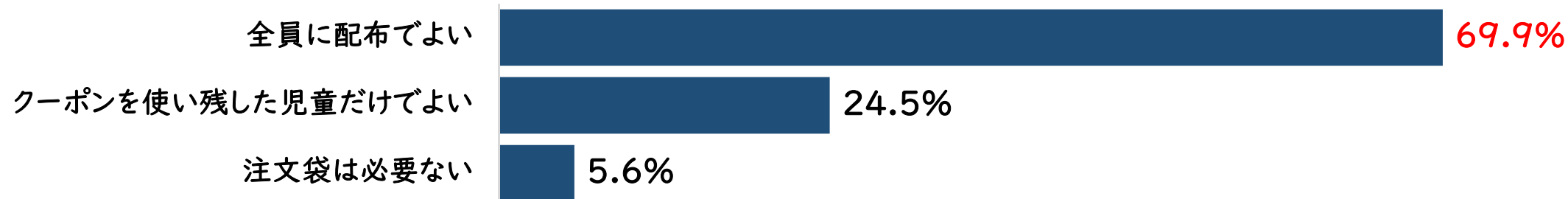
〈注文袋の配布～課題と思われること～〉

- 1年生などは、マイブッククーポンの使用が初めてなので、書店ではなく、袋で注文しているご家庭が多かったようです。趣旨を説明して、書店での購入を呼び掛けていく必要があると感じました。
- 初めに注文袋を配布したことで、書店に行かずに注文した家庭があったので、時期をずらして配布してもよかったかもしれません。
- クーポン配布をした翌日に、すぐに市教委の袋で注文してくる児童がいました。親子で書店に行って選べる環境が難しい場合、袋を配布する必要があると思いますが、そうではない子も申し込んでいるように感じました。
- 買いに行けなくて後半に袋を提出するのではなく、クーポン配布の翌日に注文袋を持ってくる児童がいたため、もったいないと思った。
- 本の注文から納品までの期間が長く、児童の期待感（早く読みたい!）や保護者の信頼感（まだ届かない?）を心配することもあった。納品までの流れや書店の都合によるものと思われますが、納品の期間の目安を明記してくださると助かります。
- 注文袋を利用した児童の本がなかなか届かなかったのが、難点だった。
- どの学年向けの本か記載がなく、分かりにくかったようです。タイトルや本のイラストから判断して選び注文した1年生児童がいましたが、届いたものが文庫本だったため、自力で読むことができないケースがありました。

4 課題解決のための新たな取組～注文袋を全児童に配布～

学校アンケートより

Q クーポンと一緒に注文袋を児童全員に配布することについてどう思いますか。



〈今後の配布方法について〉

【全員配布でよい】

- マイブッククーポンを配布する時期に、書店へ行けるかどうか分からない児童もいると思うため、購入方法の選択肢を増やすという意味でも、全員配布でよいと思います。
- 家庭の事情により保護者と一緒に本屋に行くことが困難な児童もいるので全員配布でよい。
- 今年度は、注文袋で申し込みをした児童はいなかったが、コロナ禍の中、家庭の事情で本屋に行くことが困難な児童もいると思われるので、来年度も注文袋の配布があると、ありがたいなと思います。
- 注文袋の配布によって、保護者に連れて行ってもらえない児童も本を手に入れることができたのは間違いないので、配布することには大いに意義があると思う。

【クーポンを使い残した児童だけでよい】

- ◇夏休み明けに、まだ購入していない人向けに注文袋を配布したほうが活用されるような気がします。
- ◇使用期間も長くあり、また親子で本について語り合うよい機会だと思うので、できるだけ書店で使用するよう声を掛けました。袋の使用は多くなかったように思うので、必要分だけでもよいと思います。
- ◇実際に見て決める児童が多いと感じているので、全員に配布の必要はなく、使い残した児童や、ほしい児童だけの配布でよいのではないかと感じました。

【注文袋は必要ない】

- ▲全児童が書店で購入したので、最初から注文封筒を配布する必要はないと思う。
- ▲自分が読みたい本を見つけて購入するのが目的なのであれば、できるだけ袋を渡さずに本屋さんに行ってほしい。
- ▲担当教員の負担が増えたこと、書店で購入したほうが種類が豊富であることから、注文袋は必要ないのではないかとと思う。

4 課題解決のための新たな取組～注文袋を全児童に配布～

保護者アンケートより《回答数:2,848件》

〈注文袋の配布について肯定的な意見〉

- 我が家では使用しませんでした、多忙で書店に足を運ぶことが難しいご家庭もあるかと思うのでよいアイデアだと感じました。
- 現金ではなく、クーポン限定で購入できるのがよいアイデアだと思った。
- 今回は使用しませんでした、書店に行けない時でも、おすすめを見て購入できるので、とてもよいと思いました。
- 子どもが本を直接見て選びたがったため、袋は使いませんでした、リストが大変見やすかったのも、書店や図書館に持参し、参考にしています。
- 子どもと本屋に行く時間がとりにくい家庭にとっては非常によい対応だと思います。私たちもそのような家庭に該当する(週末に休みがとりにくい)ので、クーポンは全て注文袋で使用しました。
- 注文袋で注文できるのはコロナが流行している状況ではとてもありがたいと思ったのですが、子どもが本屋さんに行って選びたいと言ったので使えなかったです。でも、出掛けられない状況だと、すごくいいと思いました。
- 注文袋は、子ども本人が見て、好きなものを選びやすいので、ブッククーポンの時期以外で活用させていただいています。
- コロナ禍ですので書店に行かなくても注文出来るので助かる。
- コロナ禍の中わざわざ書店まで行かなくとも学校で注文できて助かりました。自分も小学生の時に注文袋で本を買ってもらったことを思い出し懐かしくなりました。

〈注文袋の配布について否定的な意見〉

- 書店で選ぶ方がワクワクするし、色々なジャンルの本が目に入る。注文袋は不要。
- 注文袋でしか購入できない本であれば利用しますが、たいてい店頭で購入できる本なので利用しないです。実物を見て本を選ばせてあげたいので。
- 注文袋で買おうとしたら、学校から「本屋さんに買いに行けない人だけ注文袋を使ってください。」と言われて返されたので、注文袋を渡す必要があるのかと思いました。
- 本を手に取りながら購入させたいので、我が家には不要でした。
- 最初から渡すのではなく、クーポンを使っていない人に配布していただきたいです。
- 書店で購入する時は、端数分は現金を追加して、購入することがほとんどだったので、注文袋で購入すると損する分があるなあと思った。
- 本の中を見て買う方が、好きな本を楽しく読めると思うのでいらないと思います。
- 保護者と一緒に買いに行くのを楽しみにしているので特に必要がないと思う。
- 本屋に足を運び、たくさんの本に触れるのも大事なのではないかな。

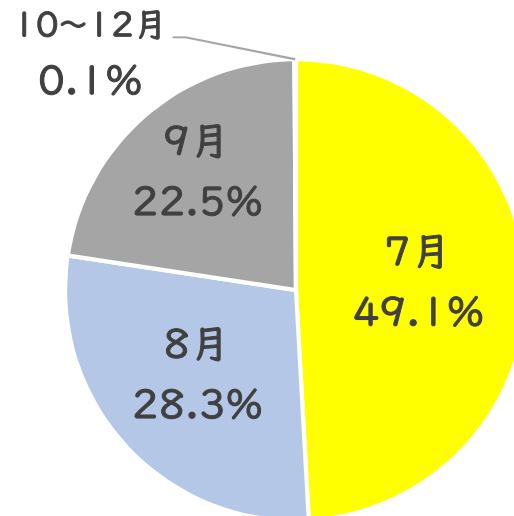
5 課題解決のための新たな取組～クーポン使用期間を7月～9月の3か月間にする～

ねらい・状況等

〈ねらい〉

- クーポン配布直後の最も購買意欲が高い時期に、夏季休業に入るようにすることで、平日でも学区内の書店へ出かけて本を購入することを可能にすることができる。
- 使用期間を9月30日までとすることで、クーポンの使用を忘れていた児童へ声がけをする時間を十分確保することができる。

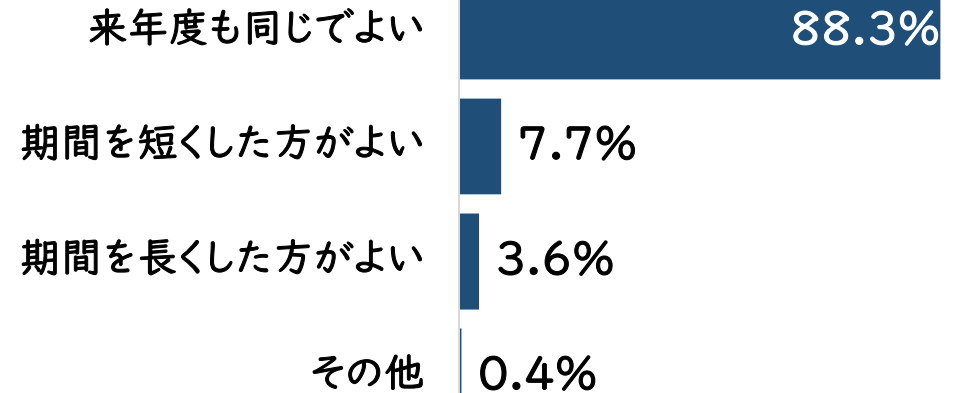
月別の執行状況(R3)



※10～12月は転入生分

【学校アンケートより】

Q クーポンの使用期間を7～9月にしたことについて



※「その他」=転入生は期間を延ばしてほしいという意見

6 学校アンケートより～記名欄の活用状況～

〈学校アンケートに関する変更点〉

- 昨年度までは、各学校代表1名がアンケートに回答することになっていたが、今年度は、2名以上が回答することとした。

〈変更のねらい〉

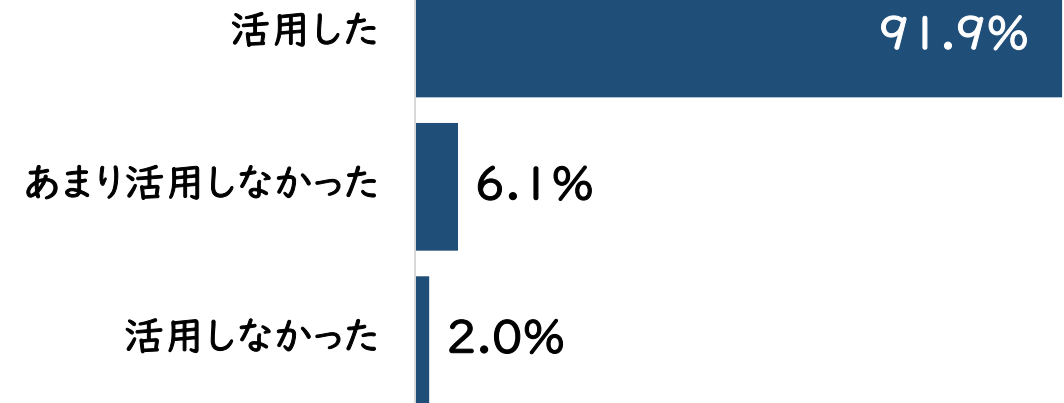
- 学級担任もネットワーク上からアンケートに回答できるようにすることで、幅広く意見や要望を集約することができるとともに、学校現場の最前線の声を把握して次年度の事業改善につなげることができる。

〈回答状況〉

R2回答数：42件

R3回答数：196件

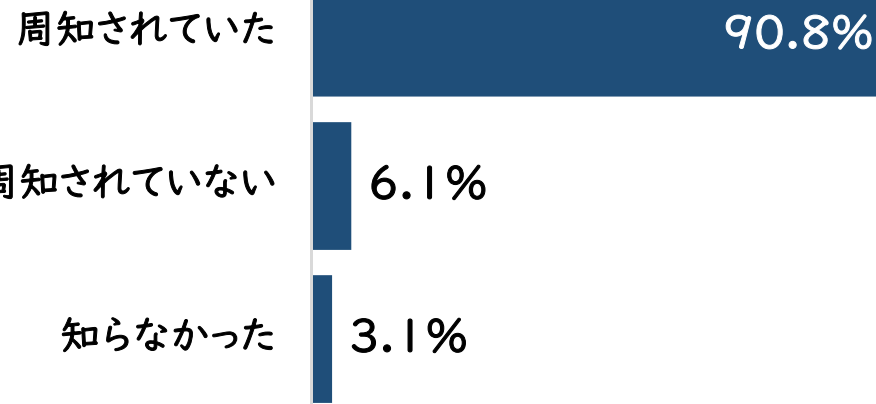
Q 児童の使用状況を把握するために、クーポンの記名欄を活用しましたか



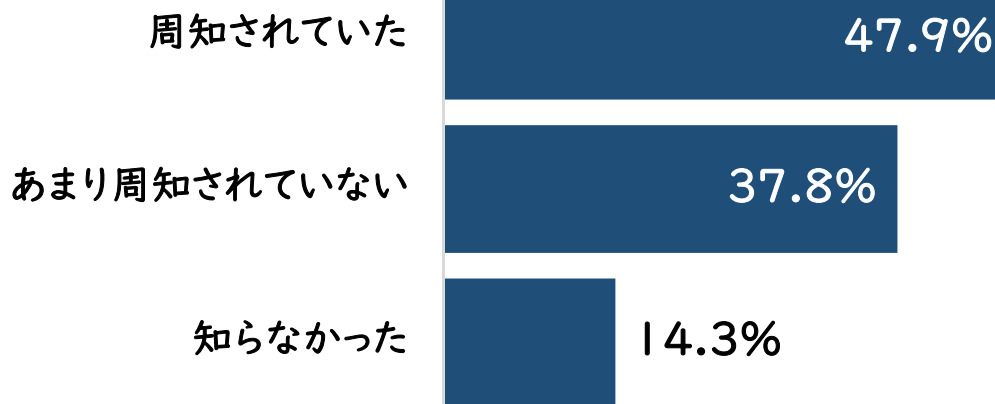
6 学校アンケートより～事業全般について～

周知の状況について

Q クーポンを未使用のまま紛失・汚損・破損した場合には、再発行することは周知されていたか。



Q ブックリスト、ポスター、塗り絵のデータをダウンロードできることは、周知されていたか



本事業の成果と思われることについて①

- このクーポンがないと本を買ってもらえない家庭もあり、そういう児童には大変嬉しい事業だと感じています。また、買ってもらえている児童でも、このクーポンを楽しみにしている児童が多くいるので、続けられるのであれば、続けていただきたいです。
- マイブッククーポンで本を購入することで、普段本を購入しない児童も本を手にとることができ、読書を普段よりも自主的に行うようになったと思います。また、「マイブッククーポンでこの本を買いました」と本を見せに来てくれた子やお友達がマイブッククーポンで買った本を見て「その本と悩んだんだよね。よかったら読み合っこない？」と話している子もいて、マイブッククーポンで購入した本を通して、コミュニケーションも図ることができました。ありがとうございました。
- マイブッククーポンを渡すと、子どもたちから「やったあ。」の声が聞こえました。普段、書店に行く機会も少なそうなので、家族と一緒に読書に親しむよい取組だと感じます。今年は、マイブッククーポン配布後、出張ブックトークも行ったので、より本に親しむ子が増えたように感じます。出張ブックトークは、希望制と聞きましたので、もっと多くの学年で幅広く行えればいいなと感じました。
- 本校では、学校司書によるブックトークを、ブックリストを中心に実施していただいた。児童が本を購入する参考となり、大変有意義でした。
- 購入した本の紹介・「読書の木」（児童のショート感想）を全校で行っています。学級でも、自分のお気に入りのページを見せたり、簡単ブックトークを行ったりしました。
- 実際に書店に行って本に囲まれる経験、選ぶおもしろさ、親御さんと出かけた思い出なども心に刻んでほしいところです。

本事業の成果と思われることについて②

- 1年生の子どもたちにとっては、初めてクーポンでしたが、購入した本をうれしそうに教えてくれました。本に触れる機会を増やすためにも、今後も継続できるとよいなあと感じています。
- コロナ禍ということもあり、興味をもった本を購入し、その本を昼休みや休日に読む子が多かったです。ぜひ来年度も継続してほしいです。
- 今年度は1人1台端末で購入した本の写真を取り、記録したり紹介したりする活動ができました。また、塗り絵も楽しんでいる児童がいました。
- 書店に出かけ、いろいろな本を手にとって自分で購入することにより、読書に対するイメージが、明るく楽しいものというように変わってきたように感じています。
- 子ども達は、自分で興味のある本を購入し、とても熱心に読んでいた。また、友達が購入した本を興味深く見ている子も多かった。読書に親しもうとする子が増えたように感じる。
- なかなか本を買わない子どもにとって、本と触れ合うことができるきっかけになるのでとてもよいと思います。
- マイブック推進事業、いつも大変な中ありがとうございます。子どもたちがこの本を買ったよと自慢してくる姿だけでなく、その本を熱心に読んでいる姿がとてもかわいいです。
- 小学6年間、このクーポンを活用して本が買えるというのは、とてもありがたいことだと思っています。本校の子ども達は、ブッククーポンをととても楽しみにしています。また、それに関連するブックトークも楽しみにしています。ぜひ、この事業はずっと継続していただきたいです。
- 子どもが、自分で本を選ぶ機会が毎年あることがいい。子ども達は、購入した本を大事にしている。6年間で6冊以上購入でき、その本は成長とともに変わっていくと思うので、本そのものが自分史になっていったらすてきだと思う。

本事業の課題と思われることについて

- ブッククーポンをなるべく使用してもらうために、使用状況のアンケートを取ったり、使用していない児童や家庭に何度も声がけをしてもらったりしているが、学級担任の先生方には負担をかけていると感じている。
- 子どもたちは、ブッククーポンで買った本を学校に持ってきて見せ合うなどして喜んでいる。しかし、担当になった先生が配布だけでなく、無くした子どもの取りまとめなどを何度もしている様子を見ると、仕事を増やしているなあと感じている。
- 今年度初めてマイブッククーポンに関する業務を担当しました。不慣れということもありますが、封筒の準備やクーポン番号と児童名の把握、家庭への配布と受け取りの確認、使用期間終了前の呼びかけなど、これほど複雑だったのだと実感しました。
- 1年生の担任をしています。マイブッククーポンをすべて使用したかどうか確認するのが大変でした。(児童本人が分からないため。)保護者へのアンケートを実施して、確認をしました。もう少し、簡単な方法があるといいのですが…。
- クーポン使用後に使用した証拠として上の部分を回収したが、回収したことでどんな意味があるのか気になりました。なくしてしまったといっている子もいて、その子は使ったと言っているが、実際のところは分からないため、わざわざ集める意味があるのかなと思いました。
- 半券に名前を書いて集めるのは必要ない。徹底できないし、児童や保護者に説明が難しい。低学年はなおさら難しい。また、家庭によっては、4枚全て使っていないのに半券だけ名前を書いて出すという家庭があることも分かった。使用の有無について口頭で確認し呼びかけることで十分であると考えます。

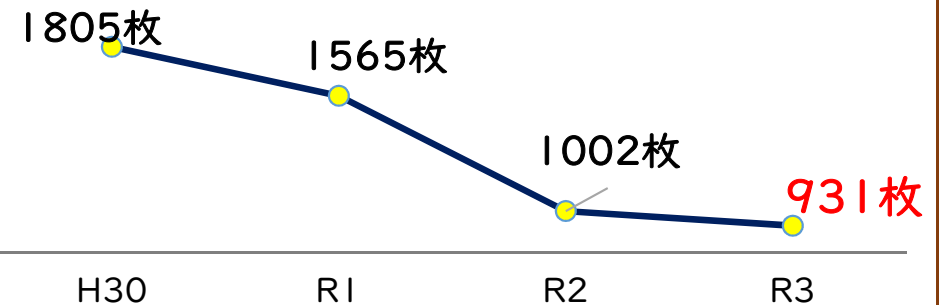
7 保護者アンケートより～事業全般について～

- なかなか本が高かったりして年に何冊も買えないので、クーポンのおかげですごく子どもが喜んでいて助かりました。
- クーポンのお陰で、なかなか行かない本屋さんにも子どもと行くことができ、本を選べたので本当にありがたいです。
- コロナで学校の図書室や図書館を利用することが減っていたので、今年は特にありがたかったです。
- 子どもは本が好きなので、いつも楽しみにしています。いつもは買えないような値段の高い本や挑戦してみようと思う本に手を伸ばしていました。
- 普段は本に興味が無いのですが、クーポンのおかげで子どもと一緒に本を選ぶ機会が増えて、とても嬉しいです。
- 毎年、ありがたく使わせていただいております。読みたい、欲しい本が本屋さんにはたくさんあるため、子どもたちも楽しみにしています。いつもクーポンでいただいた以上に本を購入してしまいましたが、私も一緒に楽しんでいます。
- 毎年マイブッククーポンがあるおかげで子どもと一緒に書店に行き、今どんな本があって、またどんな本に興味があるのかも知ることができて、子どもと一緒に本に触れる機会ができるので、これからも続けて欲しいです。
- 普段は中古で本を買ったりしますが、クーポンのお陰で子ども達が自分の好きな本を店頭で選ぶという体験ができました。
- 本を読む・選ぶ機会が、1年に1回みんな平等にあるのは、素敵な事業だと思う。継続して事業を継続してもらえたらよいと思う。
- 本が苦手な子ですが、毎年真剣に本を探す姿がとてもうれしいです。まだ、絵が多い本ですが、少しずつ本が好きになって欲しいです。ありがとうございます！
- 6年生で最後のマイブッククーポンでした。いつもは図書館から借りていますが、このクーポンのお陰で好きな本を買ってあげることができました。本当にありがとうございました。

8 今後の課題

クーポン執行率の向上（継続）

使い残されたクーポンの枚数の推移（市立小学校）



クーポンの使い残しの状況（市立小学校）

	R2	R3
1枚使い残した人数	205人	177人
2枚使い残した人数	89人	74人
3枚使い残した人数	21人	14人
4枚使い残した人数	139人	141人
使い残した人数合計	454人	406人

〈現状・考察〉

- クーポンの執行率は年々向上し、使い残されたクーポンの枚数は平成30年度比で48.4%減であることから、各学校・学級での働きかけが奏功していると言える。
- ブックリストや注文袋に1～2枚のクーポンで買える本を掲載するなどした結果、1～2枚使い残す児童が若干減少した。
- クーポンを全く使用しなかった児童に変化が見られなかったことから、家庭事情等を踏まえた個別的な支援や対応等を学校と連携して考えていく必要がある。

当市における児童生徒の読書活動の状況



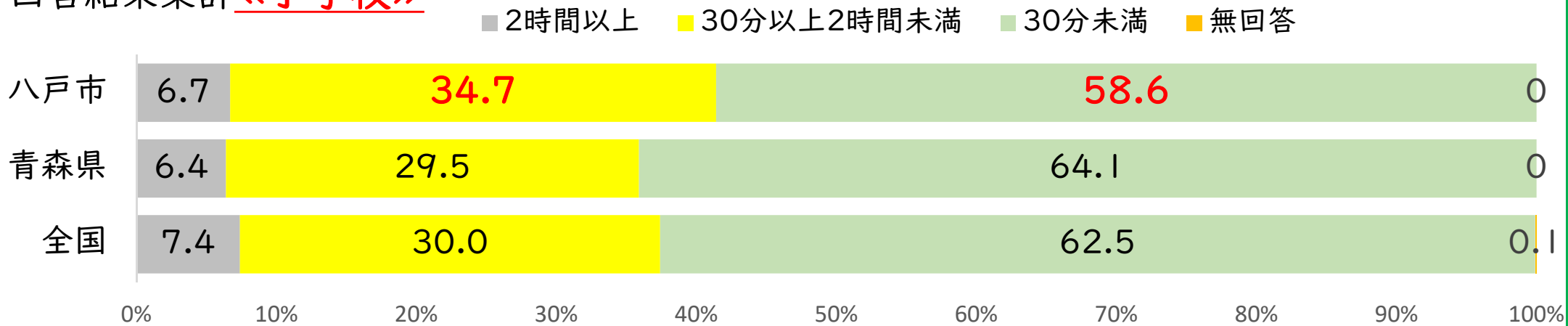
令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果から

令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査

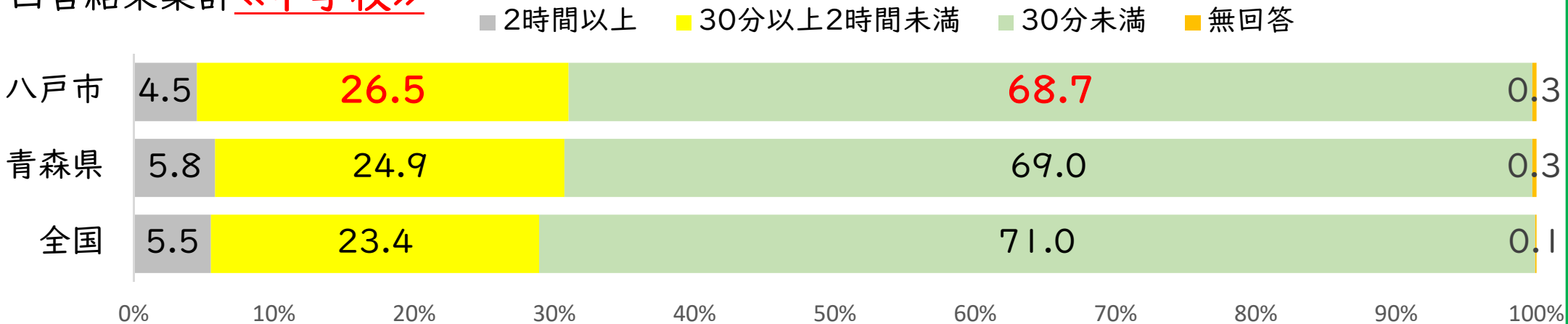
質問番号(21)

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

回答結果集計<<小学校>>

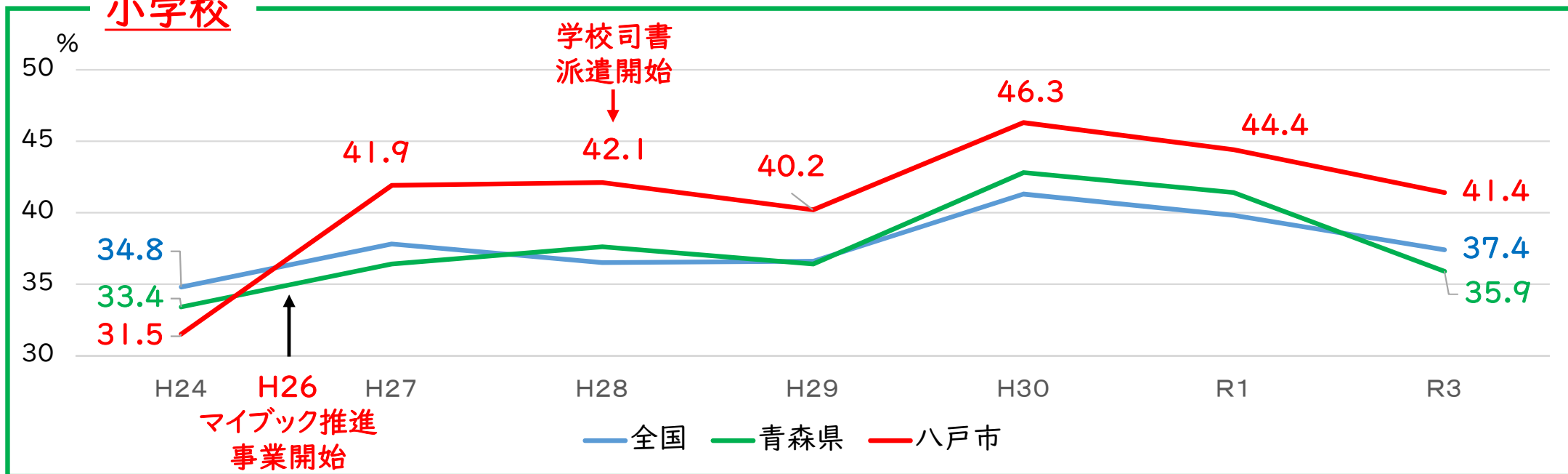


回答結果集計<<中学校>>

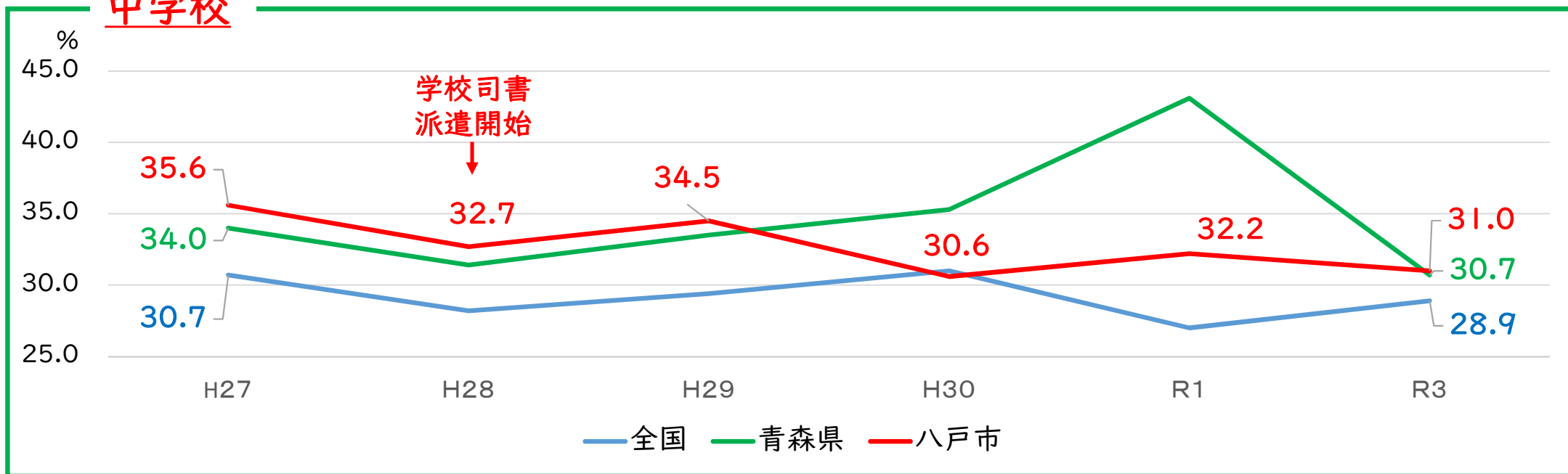


平日1日当たりの読書時間が30分以上の児童生徒の推移 (全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査より)

小学校

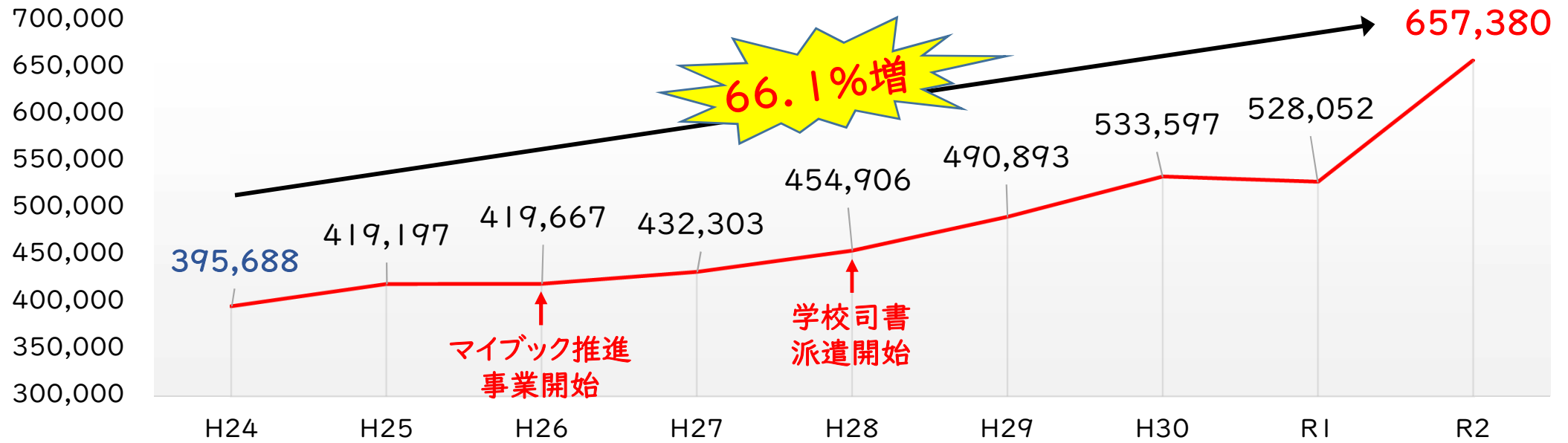


中学校

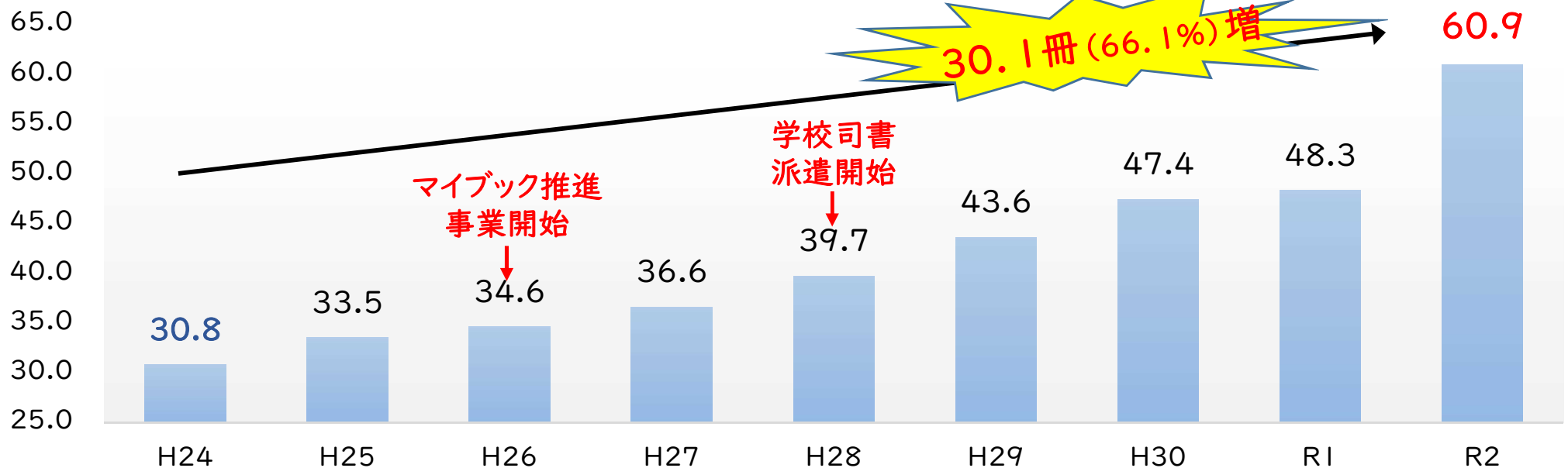


学校図書館の貸出冊数の推移<<小学校>>

学校図書館の貸出冊数<<小学校>>

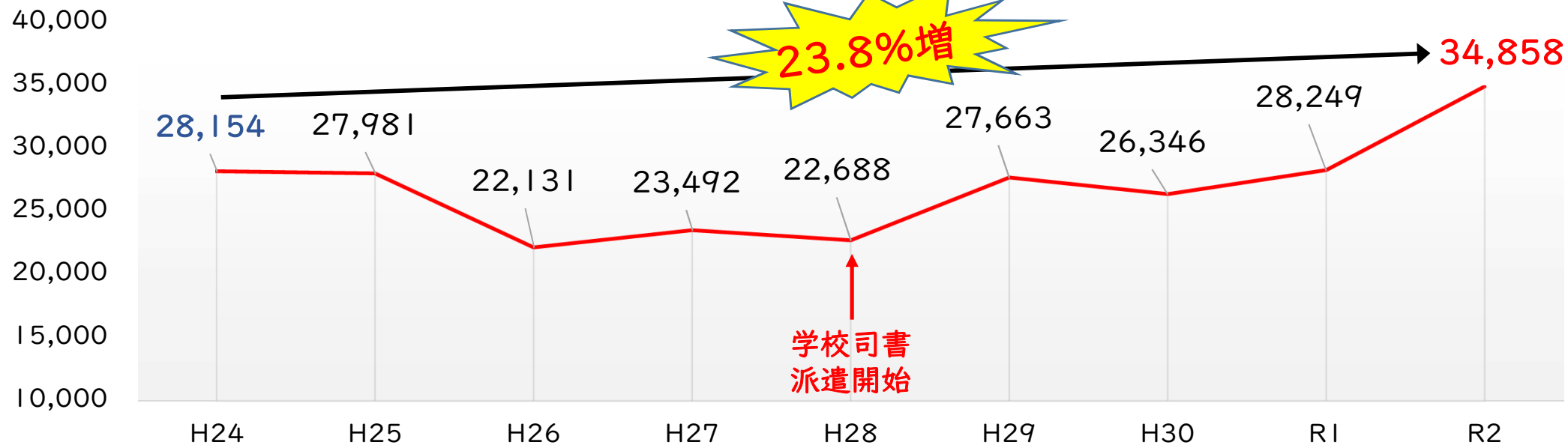


学校図書館の児童一人当たりの貸出冊数<<小学校>>

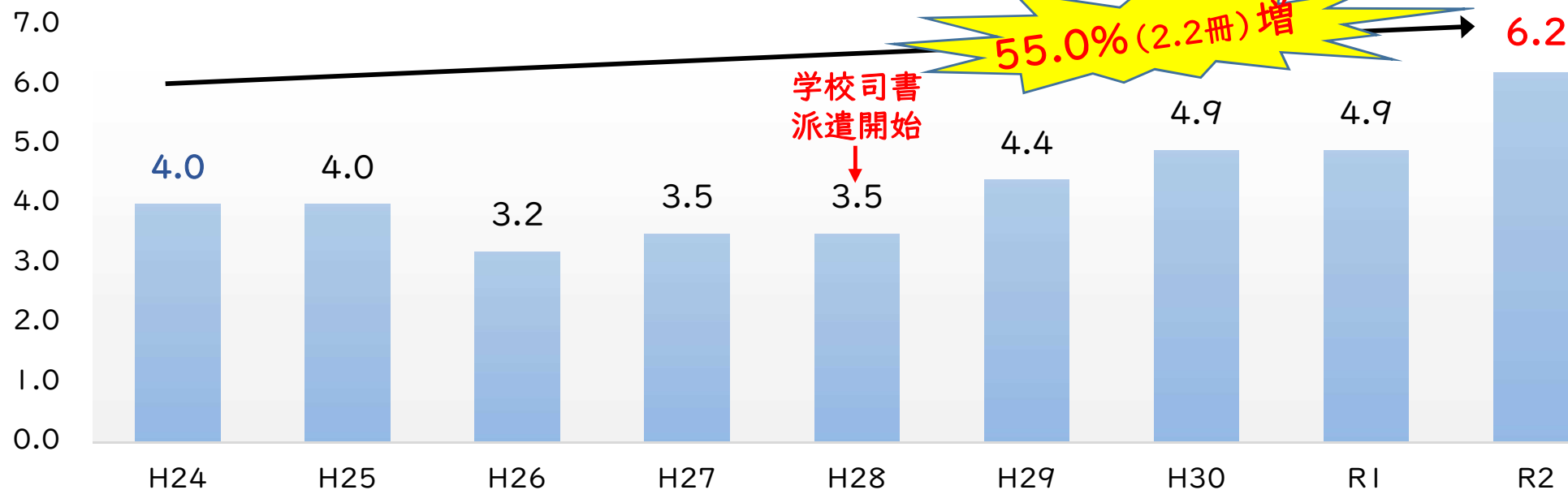


学校図書館の貸出冊数の推移<<中学校>>

学校図書館の貸出冊数<<中学校>>



学校図書館の生徒一人当たりの貸出冊数<<中学校>>



児童生徒の読書活動推進のための主な取組例

マイブック推進事業

1 実施方法

市内の書店で書籍を購入できるマイブッククーポンを、児童一人に2,000円分配布する。

2 配布対象

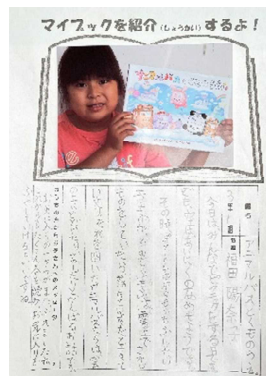
- ・八戸市立小学校に在籍する全児童
- ・県立特別支援学校小学部に在籍する全児童

3 クーポン使用期間

7月1日(木)～9月30日(木)

4 各学校における活用例

- ・マイブッククーポンで購入した本を持ち寄り、「紹介カード」等を作成して紹介し合う。
- ・学校図書館にブックリストに掲載されている本やおすすめの本を特設展示する。
- ・読んだ本の感想カードを全校分掲示する。



学校図書館支援事業

《学校司書の派遣》

- 令和3年度の学校司書は8名で、1人5校を担当する。
- 学校司書派遣校は40校(小学校28校、中学校12校)
- 学校司書は、週に1回程度(月3～4回)、各学校を訪問する。

《学校司書派遣校の推移》

		H28	H29	H30	R1	R2	R3
学校司書の人数		3名	3名	4名	4名	6名	8名
派遣校	合計	10校	18校	21校	32校	30校	40校
	小学校	7校	12校	14校	22校	25校	28校
	中学校	3校	6校	7校	10校	5校	12校

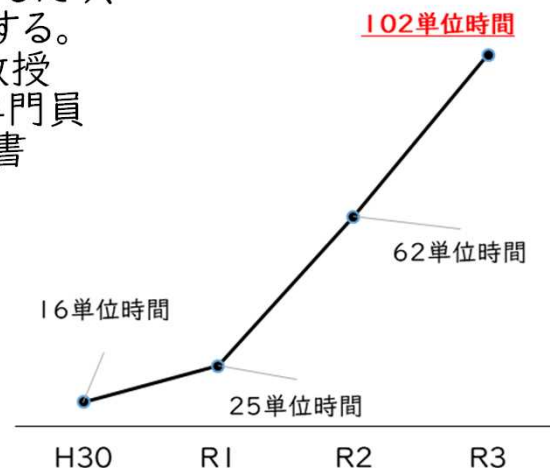
出張ブックトークの実施

《内容》ブックリストに掲載されている本を中心に本の内容を紹介したり、一部を読み聞かせしたりする。

《講師》八戸工業高等専門学校教授
八戸ブックセンター企画専門員
市立図書館職員・学校司書

◇活動実績(1単位時間=45分間)

年	実施時間数	対象児童数
H30	16単位時間	521人
R1	25単位時間	1026人
R2	62単位時間	1607人
R3	102単位時間	2759人



各学校における読書活動例

- ボランティア等による、定期的な読み聞かせの実施
- 「朝の読書」など、全校一斉読書の設定
- 「家庭読書週間」「お茶の間読書週間」等の名称で、保護者が児童へ読み聞かせをしたり、児童が保護者に読み聞かせをしたりする期間を設定

《特色ある取組例》

- 「読書の集い」で教師が読み聞かせをする。(金浜小)
- 「スキマ読書運動」として読書通帳を整備し、隙間時間を利用した読書を奨励し、読んだ本を記録する。フィクション10冊、ノンフィクション10冊を読んだ生徒を文化祭で表彰する。(根城中)

現状から

- 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査による平日の読書時間が30分以上の児童生徒の割合は、令和3年度の結果については、当市の平均は、全国や青森県の平均を上回っている。
- 同調査のこれまでの推移をみると大きな変化は見られないが、小学校については、平日の読書時間が30分以上の児童の割合が全国、青森県を下回っていたが、マイブック推進事業開始を境に、上回るようになった。
- 学校図書館の貸出冊数を見ると、特に小学校において、平成24年度から右肩上がりで増えていることから、一概に読書離れが進んでいる又は顕著であるとは言えない。
- 中学校の貸出冊数は大きな変化は見られないが、部活動等により、平日に読書をする時間を確保することが難しい状況によるところも大きいと考えられる。
- 令和2年度に、小・中学校ともに貸出冊数が大きく増加したのは、コロナ禍により屋内で過ごす時間が増えたことも影響していると考えられる。

今後に向けて

- 全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果や学校図書館の貸出冊数の推移をみると、各学校における児童生徒の読書活動を推進する取組が奏功していると思われ、今後も継続する必要がある。



令和3年度 学校教育実践功労表彰について（報告）

今年度の学校教育実践功労表彰について、下記のとおり表彰団体を選定し、表彰式を行いましたので報告します。

1 趣 旨（制度の目的）

確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むことを目指して実践的に教育活動を展開し顕著な成果を上げた研究や活動を表彰し、八戸市の学校教育の質の向上を図る。

2 日 時 令和4年1月31日（月） 16：00～16：30

3 会 場 八戸市庁 5階 教育長室

4 表彰団体

研究部門 全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会実行委員会
（研究内容）音楽科教育研究「ひろげよう つたえよう こたえよう」
～全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会～
活動部門 八戸市立是川小学校
（活動内容）是川縄文館と連携した地域学習への取組

5 選定・表彰の概要

（1）選定までの経過

令和3年 9月21日（火） 募集開始
令和3年12月10日（金） 募集締切（応募団体：2団体）
令和4年 1月19日（水） 学校教育実践功労表彰 意見聴取会
（応募団体へのヒアリング・書類審査・選考）
令和4年 1月31日（月） 学校教育実践功労表彰 表彰式

（2）選定結果

学校教育実践功労表彰意見聴取会（小中学校長会代表・小中学校教育研究会代表・PTA代表の6名）からの意見をもとに総合的に検討し、上記団体が優れた実践を行い顕著な成果を上げていると判断し、表彰団体として選定した。

団 体 名	全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会実行委員会
表彰項目	研究部門
研究内容	音楽科教育研究「ひろげよう つたえよう こたえよう」 ～全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会～

内容（具体的な活動内容や効果・成果など）

<研究の概要>

令和3年度全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会に向け、平成30年度に準備委員会を立ち上げてから3年間、「ひろげよう つたえよう こたえよう」をテーマに全会員で研究を進めてきた。小学校では、「♪音楽の学び♪ひろげよう つたえよう こたえよう」を、中学校では、「ひろげよう つたえよう こたえよう 音楽の波間で」をそれぞれ部会主題とし、校種間での学習内容の関連を図りながら研究を重ねてきた。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、二度も開催方法が変更となったが、「誌上発表」という形でこれまでの研究成果を全国へ発信することができた。

<授業実践>

①小学校2学年 鑑賞「いい音 みつけて」

②小学校3学年 歌唱「曲に合った歌い方を見つけよう」

③小学校4学年 器楽「虎舞のおはやしを楽しもう」

④小学校6学年 音楽づくり「動機をもとに音楽をつくろう」

⑤中学校1学年 鑑賞「音楽の持つ意味や役割を考えながら、『えんぶり』の音楽のよさや美しさを味わおう」

⑥中学校2学年 表現「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」

<取組の成果>

主体的・協働的な音楽の学習を積み重ねていくことで、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら音楽の学びをアップデートすることができ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わりながら、児童生徒の「生きる力」の高まりにつなげることができた。また、新しい生活様式の中での音楽の授業づくりについて研究を深めることができた。

天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」指定100周年記念セレモニーの実施について

1. 趣 旨 大正11(1922)年3月8日に蕪島がウミネコの繁殖地として国の天然記念物の指定を受けており、今年で100周年を迎えることから、記念するセレモニーを実施するもの。
2. 主 催 八戸市
3. 場 所 八戸市水産科学館マリエント(鮫町字下松苗場14-33)
4. 日 時 令和4年3月8日(火) 午前9時00分～(30分程度)
5. 出席者 (1)来 賓
観光関係者・地元関係団体 各代表
市議会議長
市文化財審議委員
(2)主催者
市長・教育長
6. 内 容 (1)主催者挨拶
(2)来賓祝辞
(3)記念ロゴマーク発表・進呈式
(4)看板除幕式
(5)記念撮影
7. 新型コロナウイルス感染症への対応
 - (1)新型コロナウイルス感染症の感染による会場休館の場合、セレモニーを中止とし、ロゴマーク進呈式を別途実施。
 - (2)開催に当たっては、除幕式を除き、人同士の距離確保やマスク着用など基本的対策を徹底。
8. 令和3年度関連事業
 - (1)100周年記念看板設置(3月8日、場所:蕪島)
 - (2)100周年記念懸垂幕設置(3月8日、場所:市庁舎別館前)
 - (3)100周年記念バナーフラッグ設置(3月8日、場所:中心街・JR八戸駅)
 - (4)広報はちのへ3月号特集記事掲載(2月20日発行)